

はつとん weekly(校長室より⑥)

コミュニケーション力

「コミュニケーション力」と言われるときのコミュニケーションとは、辞書的に言うと「言葉による意思・思想などの伝達」を指すのだと思います。一方、日常コミュニケーション力の高いと言われる人の印象は、人と楽しく話をしたり、場を盛り上げたり、言葉数が多かったりする人で、寡黙なおとなしい人と対局な感じがします。しかし、識者などが大切だという「コミュニケーション力」とは、辞書的な伝達や場の雰囲気に係ることを言っているわけではないのではないのでしょうか。

先日、本校の生徒が大阪大学大学院国際公共政策研究科主催の Future Global Leaders Camp (FGLC) 2024 で金賞・銀賞を獲得しました。このキャンプは、「2030 年を達成の年限とする持続的な開発目標(SDGs)を念頭に、それ以降の社会の目指すべきありかたを見据えた探究学習」をテーマに、大学生のファシリテーターとともに行うグループワークを通じて、課題の発見から解決策の提案に至るまでの研究の流れや発表の方法を学ぶというものです。

全国から参加した高校生と、グループで設定した課題に関して議論を深め、まとめ上げていく中で、たくさんの意見を交わし合い、刺激を受けたようです。自分の課題に対して、想像もしていなかった質問や意見が出てきて、そのことをお互いに考えながらその人たちとつながっていくという体験は、表面的な意味でのコミュニケーションを超えている作業だと思います。インタラクティブなコミュニケーションであり、しかも思考や創造を伴うものです。日頃、一緒にいる友達ではない人とこのような関係性を創り上げることは、人生において大変貴重な経験だと思います。大学の先生方が学会で年に数回しか会わない、外国の同じ分野の研究者が、大変近くに感じる友人である、と言われることと同じような体験をしたのだと思います。

語るべきものを持ち、語るべき相手と語り合い、新しいものを創造したり、道を切り拓いたり、深い関係性を築いたりするような力としての「コミュニケーション力」を養えるような学びの場を展開していきたいと思います。そして、「知的創造は、根本的に対話的である」ということを念頭に初芝富田林のこれからの教育を創っていききたいと思います。